

株式会社ジャパンエンジンコーポレーション
グリーンローン・フレームワーク
2023年 4月



目次

1. はじめに

- 1. 1 事業概要
- 1. 2 経営理念およびビジョン
- 1. 3 ESGへの取組み
- 1. 4 グリーンローン・フレームワーク策定の位置付け

2. フレームワーク

- 2. 1 調達資金の用途
- 2. 2 プロジェクトの評価と選定のプロセス
- 2. 3 調達資金の管理
- 2. 4 レポーティング

1. はじめに

株式会社ジャパンエンジンコーポレーション（以下、「当社」といいます。）は、2017年4月1日に、神戸発動機株式会社と三菱重工船用機械エンジン株式会社（当時）のエンジン部門が事業統合し、世界で唯一「開発から、設計、製造、販売、アフターサービスまでの一貫体制」を備えたグローバルライセンサーとして新たに船出しました。

110年を超える長年に亘り培ってきたモノづくりのノウハウと、最先端の技術力を結集した高信頼性、高経済性、親環境性を追求した付加価値の高いエンジンを提供することで、日の丸エンジン「UEブランド」の伸長と発展、さらには企業価値の向上を図っております。

1. 1 事業概要

当社は、主に以下の4領域で事業を展開しております。

1 船用主機関（UEエンジン）

当社は、船用低速エンジンの世界三大ブランドの一つであるUEエンジンを独自技術で開発、製造しております。UEエンジンは、市場動向や多様化するお客様のニーズに応え、常に最先端の技術を取り入れ進化しており、ばら積み船、タンカー、自動車運搬船、およびコンテナ船など、世界中で多くの船舶に採用されております。

2 ライセンス・部品供給

当社は、独自技術でUEエンジンを開発しております。徹底したマーケティングでお客様のニーズを汲み取り、環境規制や市場動向を踏まえた最新技術を常に取り入れることで最適な製品を生み出しています。また、こうした優れた技術力や製品化のノウハウを背景に、事業をグローバルに展開しており、国内外のエンジンメーカーにライセンスを供与するとともに、ライセンス供与先でのUEエンジン製造にあたっては、当社からエンジン部品を供給しております。

3 アフターサービス

お客様がUEエンジンを安全に安心して使っていただけるように、安定して部品を供給しております。また、UEエンジン搭載船について、就航時からの整備記録を「カルテ」としてデータベース化しており、計画的なメンテナンスを提案・提供しております。万一のトラブル発生時には、開発元であるという強みを活かし、開発設計部門などと連携した迅速な対応が可能です。また、実機やトレーニングセンターを用いて、乗組員や認定補修会社向けにトレーニングも行っており、UEエンジン搭載船の安全運航をサポートしています。

4 新事業

長年にわたる船用低速エンジンの開発・製造によって蓄積された、エンジニアリング力や生産技術を活用し、船用低速エンジン以外の製品の機械加工や組立などの各種工事を積極的に取り込み、新事業として展開しています。

1. 2 経営理念およびビジョン

当社が手掛ける船用ディーゼルエンジンは、世界の大動脈として物流を支える船舶に搭載される「心臓」であり、お客様の安全かつ安定した運航に寄与し、ご満足いただけるサービスを提供し続けることは、当社の使命であります。

「世の中から必要とされ、技術力で持続可能な未来を創造する企業」であり続けるために、海運・造船業の発展に貢献し、新たな価値を社会に提供し続けられるよう、また、社員が健康で生き生きと働き続けられる企業に発展するよう、当社は弛まぬ努力と挑戦を続けてまいります。

そして、これらのことを明確にするため、以下の経営理念およびビジョンを掲げております。

経営理念

1. 伝統と革新スピリットを融合

「永くに亘る歴史と伝統を基盤にし、革新的スピリットの融合で、機動的かつ柔軟な経営を推進する」

2. 社会と業界の発展に貢献

「環境対応と経済性を両立した技術と品質向上への飽くなき挑戦で、社会、海運・造船業界の発展に貢献する」

3. 総合力を発揮し、世界へ飛躍

「社員の力を結集し、開発・設計・製造・販売・サービスの一貫体制で、世界に伍していける企業を目指す」

4. 無災害職場の確立

「危険予知の徹底と闊達なコミュニケーションで、災害ゼロを目指す」

ビジョン

“世界的視野に立ち、伝統と革新を融合させ、日の丸船用エンジンをお客様とともに育て、次代を拓く”

1. 3 ESGへの取り組み

当社は、経営理念の一つに「環境対応と経済性を両立した技術と品質向上への飽くなき挑戦で、社会、海運・造船業界の発展に貢献する」と定めており、気候変動を始めとする環境問題に対応し、環境と調和した事業活動と地球環境に配慮した製品・サービスの提供を通じて、「脱炭素社会の実現」などの環境課題に積極的に取り組み、社会の持続的な発展に寄与することを基本理念としております。

また、こうした考えのもとで、以下の基本方針を策定しております。

- 1) 地球環境保全を経営の最重要課題の一つとして認識し、自主的・積極的に取り組みます。

- 2) 環境性と経済性を両立した製品・サービスを積極的に開発、社会に提供していくことで気候変動への対応を含む環境保全に努めます。
- 3) 事業活動の全ての領域で、汚染の予防、省資源・省エネルギー・リサイクル・廃棄物の削減に取り組み、環境への負荷の低減に努めます。
- 4) 環境目標の設定、実行計画の定期的見直しの実施等により、環境マネジメントシステムの継続的改善を図り、環境パフォーマンスの向上に努めます。
- 5) 環境関連の法規制及び当社が同意するその他の要求事項を順守するとともに、必要に応じ、自主基準を設定して環境保全レベルの向上に努めます。
- 6) 環境教育や広報活動を通じ、全従業員及びパートナーに地球環境問題への意識の高揚と環境マネジメントシステムの理解の促進に取り組みます。
- 7) ステークホルダーとのコミュニケーションを通して、地域社会のよりよい環境づくりに貢献します。

これらの考えと基本方針のもとで、当社の取り組んでいる事業活動と、貢献するSDGsの目標、該当するESGを纏めたものが下表となります。

当社の取り組み	貢献するSDGsの目標	該当するESG
環境に優しい製品づくり <ul style="list-style-type: none"> GHG(温室効果ガス)削減 NOx(窒素酸化物)、SOx(硫黄酸化物)排出低減などの規制をクリアし、かつ、更なる低燃費を追求した新機種の開発、ラインナップ拡充 MGO専焼エンジンの開発・製造 太陽光発電システムやLED照明の導入による製造工程における環境負荷低減 	 	E
次世代技術の開発 <ul style="list-style-type: none"> 脱炭素社会実現に向けた脱炭素燃料(水素、アンモニアなど)への研究投資 CBM(Condition Based Maintenance)の推進 産学官公連携による共創イノベーションへの継続的な取り組み 	    	環境
地球環境保護と地域社会への貢献 <ul style="list-style-type: none"> 海洋ごみ清掃活動の実施 スポーツを通じた地域社会貢献(ヴィッセル神戸とのオフィシャルスポンサー契約) チャリティ自動販売機設置による社会貢献活動 	 	S 社会
働きやすく、人にやさしい職場環境づくり <ul style="list-style-type: none"> ウェルビーイング向上への取り組み 積極的な雇用の展開(女性社員、外国籍社員の活躍) 		G ガバナンス
ステークホルダーとともに <ul style="list-style-type: none"> サプライチェーンマネジメントの最適化 コンプライアンスの厳守 コーポレートガバナンスの強化 		

1. 4 グリーンローン・フレームワーク策定の位置付け

当社は上記の通り、環境課題の解決に向け、様々な取組みを進めておりますが、この度、脱炭素社会の実現に向けたカーボンフリー燃料への研究投資をさらに加速させ、水素やアンモニアを燃料として使用するエンジンの製品化や、そうしたエンジンの社会実装を強固に推進していくこととしました。そして、これに伴う資金調達の枠組みとしてグリーンローン・フレームワーク（以下、「本フレームワーク」といいます。）を策定しました。

2. フレームワーク

本フレームワークは、ローン・マーケット・アソシエーション（LMA）、アジア太平洋ローン・マーケット・アソシエーション（APLMA）及びローンシンジケーション&トレーディングアソシエーション（LSTA）の定める「グリーンローン原則2023」および環境省の定める「グリーンローンガイドライン2022年版」に基づき策定されており、以下の4つの要素により構成されています。当社は、本フレームワークに則ってグリーンローンを調達いたします。

1. 調達資金の使途
2. プロジェクトの評価と選定のプロセス
3. 調達資金の管理
4. レポーティング

2. 1 調達資金の使途

本フレームワークで調達された資金は、以下の適格クライテリアを満たすプロジェクトに充当します。

適格クライテリア

適格事業区分	適格クライテリア	貢献するSDGsの目標
高環境効率・ 環境適応商品、 環境配慮生産技術・ プロセス	脱炭素社会実現に向けたカーボンフリー燃料（水素・アンモニア）への研究投資によるエンジンの製品化、社会実装の推進	

2. 2 プロジェクトの評価と選定のプロセス

当社企画管理部は、水素燃料エンジン開発推進室およびアンモニア燃料エンジン開発推進室の支援を受けながら、適格クライテリアに適合している適格プロジェクトを選定し、適合していることの最終決定は、管理部門管掌取締役が行います。

対象となるプロジェクトの選定にあたっては、適格クライテリアに該当しているかを確認するとともに、環境・社会的リスク低減のため、以下について対応していることを確認します。

- ・事業実施の所在地の国・地方自治体にて求められる環境関連法令等の遵守と、必要に応じた環境への影響調査の実施
- ・当社の環境課題に関する取り組みの基本理念・基本方針を遵守し、これに沿った活動であること

2. 3 調達資金の管理

本フレームワークに基づいて調達されたグリーンローンの調達額と同額が、適格事業のいずれかに充当されるよう、追跡・管理すると同時に、必要に応じて定期的に調達額と充当額が一致するよう調整します。

調達された資金は、概ね5年以内に、適格クライテリアを満たすプロジェクトに関する支払いに充当される予定です。また、資産の売却等により、未充当資金が発生した場合は、適格クライテリアを満たす他のプロジェクトに再充当します。未充当資金については、充当が決定されるまでの間は、当社は未充当額と同額を現金または現金同等物にて管理する方針です。

2. 4 レポーティング

・資金充当状況レポーティング

当社は、適格プロジェクトに調達資金が全額充当されるまでの間、調達資金の充当状況（調達総額、充当額および未充当額、未充当資金の運用方法等）を年次で、当社ウェブサイト上に開示することを予定しております。

なお、調達資金の全額充当後においても、充当状況に重要な変化が生じた場合は、必要に応じてウェブサイト上にて開示することを予定しております。

・インパクトレポーティング

当社は、以下の環境改善効果に関する指標等を、合理的に実行可能な限りにおいて、年次で当社ウェブサイトなどにて開示することを予定しております。

環境改善効果に係る指標等
・カーボンフリー燃料エンジンの研究開発、製品化、社会実装の進捗状況
・CO ₂ 削減効果 約33万トン/年(2030年) ※注 (ポテンシャル推計)

※注 CO₂削減効果

ゼロエミッション船の商業運航の実現により期待される世界のCO₂削減効果として以下の前提に基づき機械的に算出した。

算定の考え方

本プロジェクトによって運航を開始するゼロエミッション船によって削減される排出量として試算。1隻あたりのCO₂排出量は、国際海事機関(IMO)の燃料油消費実績報告制度に基づく2019年の集計値(対象船舶は総トン数5,000トン以上の外航船)から算出

利用したパラメータ

① 2030年に運航を開始しているゼロエミッション船の隻数：10隻

② 1隻あたりのCO₂排出量：3.3万トン/年

計算式：①×②

以上